

「水道水はおいしい」

横浜市立生麦中学校

二年 藤井 彩音

水道水は、とてもおいしいです。なんとなく水道の水はおいしくないと思いついて多いのではないのでしょうか。

私は市販のミネラルウォーターと水道水を飲み比べてみました。家族に協力してもらい同じコップで別がつかないようにし、室温の水と冷蔵庫で冷やした水を味わってみました。どれも問題なくおいしかったです、おいしいと感じた順に一位から四位まで順位を付けました。四位は室温のミネラルウォーターでした。冷えていない水は少し味気ない感じがしました。三位は室温の水道水。二位は冷えたミネラルウォーター、さわやかな感じでした。そして最も飲みやすくおいしく感じたのは冷えた水道水だったので。

私は小学生の時に西谷浄水場の横浜水道記念館を見学して、横浜が近代水道発祥の地であり、きれいな飲料水があることは港の発展や都市の発展に大きく寄与したことを知りました。それから飲み水のことを調べるようになり、私達は水道水が飲める国に育って幸せであり、ありがたみを忘れていないことに気が付きました。

海外では水道水をそのまま飲むことができる国は数えるほどしかありません。アジアでは唯一日本だけです。水道水が飲めないのは水源の水量が少ないことや、人間の活動のせいで河川が汚染されているためです。そのよな国のひとは、毎日水を汲み運ばないといけなかったり、ボトルの水を購入したりするしかありません。

私は水道水のファンになりました。水分補給は水道水です。氷を入れて水筒で持ち歩いています。お茶やミネラルウォーターより実は安全で長持ちするのです。

日本初の近代水道が横浜で一八八七年に開通してから、日本中に七十三万キロの水道が張り巡らされています。これを維持するには大変な苦勞があるそうです。水道設備が老朽化しています。横浜市の水道は九千三百キロありますが一年間にできる工事は百十キロだそうです。こ

れでは工事が完了するころには、また古くなってしまいます。老朽化した水道管は地震に弱く、今年の元旦にあった能登地震では全域が断水し、五月になっても全面復旧には至っていません。

私の住む岸谷というところには「岸谷の湧水」という湧き水が出る場所があります。私の通う中学校の建つ丘のふもとの国道脇に石垣に囲まれた水場があります。横浜には昔から湧き水が多くて、機関車のボイラーに使ったり、横浜港の船舶に供給していたそうです。水に関する漢字で「谷」の「岸」なので、昔から谷川だったので、と想像します。岸谷の湧水は年中涸れることなく蛇口を締め忘れた程度の水量で湧きつづけています。看板に説明書きがあり、昭和十二年の国道建設時に発見されたこと、煮沸して飲むことなどが書かれています。この湧き水も万一の災害時には貴重な水源になるかもしれません。この水は中学校が建つ丘に降った雨水が集まって湧き出しているのでしょう。きれいな湧水を保つには学校の周りを汚してはいけないな、と思います。

日本は水資源に恵まれ、充実した水道が整備されていますが、これは自然環境の賜物です。日本の地理的な条

件や気候がこのような環境を作っているのです。これはたまたま運が良かっただけと言えます。水源地の森や、河川の自然と環境を大事に維持しないと、いつまでも安全な水を享受することはできないということを肝に銘じなければなりません。

飲料水の持続可能性を考えると、とても困難なことに思えます。しかし一人一人の小さな努力が大きな変化を生み出すことを信じて、水を大事にしていきたいと思います。